

2022年3月31日
SCSK株式会社

ローカル 5G 無線局免許取得及び実証実験の開始について ～オールインワン型ローカル 5G 基地局のプロトタイプを開発～

SCSK株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者:谷原 徹、以下 SCSK)は、総務省関東総合通信局よりローカル5G 無線局免許を取得しました。当該無線局取得において、基地局機能や通信コア、MEC*1など、ローカル 5G の主要機能をソフトウェアで独自に構築しました。

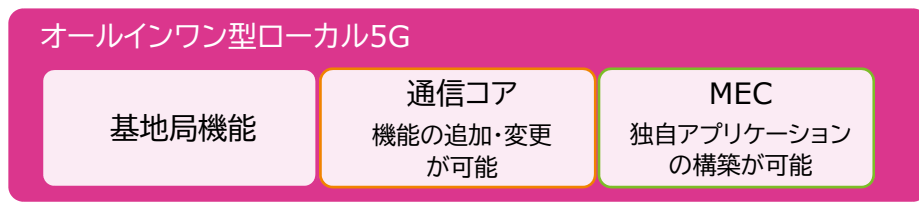
今後、SCSKでは、性能強化を進めると共に、お客様との共創・実証実験などを通じ、カメラ動画のリアルタイム解析やHMD(ヘッド・マウント・ディスプレイ)によるUX/UIなど、MECに対応するさまざまな5Gアプリケーションの開発、検証を推進してまいります。

*1 MEC(Multi-access Edge Computing)とは、携帯端末やIoT 機器などの端末により近い場所にサーバーを分散配置することで“低遅延”を実現するネットワークアーキテクチャ技術です。

1. 背景

国内においてローカル5G が制度化され、企業独自のローカル5G ネットワークの構築が可能になっております。また、技術面では、5G ネットワークの相互接続に向けた規格の標準化(オープン化)、仮想化、モジュール化といった取り組みがワールドワイドで進められています。

2. オールインワン型ローカル5Gの特長



オールインワン型ローカル5G の構成イメージ

- オールインワン:
通信に必要な基地局機能や通信コアだけでなく、5G アプリケーションを構築する MEC も含めた構成としており、ローカル 5G の利用において求められる主要な機能を一体型で実現しています。
- 高い拡張性:
ローカル 5G 専用の機器を必要とせず、汎用的な IA サーバー上への構築を可能としています。また、オールインワン型でありながら、一部のコンポーネントをクラウドと組み合わせて利用できるなど、柔軟なローカル5G 環境の実現が可能です。

さらに、通信コアへの通信監視機能の組み込みなどのカスタマイズや MEC 上への 5G アプリケーションの構築も容易に対応できます。

今後の取り組み

- コンテナ技術や仮想マシン、仮想スイッチなどの仮想化技術を取り入れ、基地局シェアリング設備をはじめとするさまざまな5G 関連ハードウェアとの相互接続性を、弊社ローカル 5G 環境にて検証してまいります。
- マイクロソフト社製 HoloLens をはじめとするさまざまな HMD を用い、リモートでの作業支援、教育支援、コミュニケーション支援がおこなえる XR(クロス・リアリティ)アプリなど、ローカル5Gに有効なアプリケーションの開発を進めてまいります。

本件に関するお問い合わせ先

【オールインワン型ローカル 5G に関するお問い合わせ先】

SCSK株式会社

R&D センター

E-mail: rdc-info@ml.scsk.jp

【報道関係お問い合わせ先】

SCSK株式会社

企画本部 広報部 須田

TEL:03-5166-1473

※ 掲載されている製品名、会社名、サービス名はすべて各社の商標または登録商標です。